

株式会社 竜の子プロダクション 様

転送時間を FTP の 100 分の 1 に短縮！！テレビアニメ制作のグローバル化を支える高速ファイル転送ソリューション

“世界のファミリーに夢を” この言葉を社是として、1960 年代から誰もが知るようなアニメーション作品を次々とヒットさせてきた竜の子プロダクション。「マッハ GoGoGo」「ハクション大魔王」「タイムボカン」「科学忍者隊ガッチャマン」等々、夢と感動、笑いの渦に巻き込む作品を次々と生み出してきたアニメ制作業界の老舗は今年、創立 50 周年を迎える。その同社は今、テレビアニメーション制作のグローバル化、デジタル化にも取り組みつつある。

課題

- テレビアニメーションの共同制作パートナーである韓国企業からの素材データの転送が遅く厳しいスケジュールに対応できない
- 試験導入した FTP ではデータ転送途中での瞬断により、配信作業のやり直しが発生するため、常時パソコンの前で監視が必要
- 物理メディアによる搬送を中心に考えると、付帯業務やコストなど負荷が大きくなる

検討プロセス

- 信頼する SI パートナーから提案された SkeedSilverBullet™ を試用。当初は期待していなかったが次の点から導入を決定
 - 韓国側の回線環境が高品質で空き帯域が多い
 - 予想を遥かに超えた評価結果
 - 信頼する SI パートナーからのサポートによる安心感

導入効果

- 韓国からの素材データ転送において実測値で FTP の 100 分の 1 以下の所要時間に短縮
- SkeedSilverBullet™ のレギューム機能により、転送途中の瞬断対応のために PC を監視する必要はなく生産性が大きく向上
- DVD や HDD の購入や搬送コストなどが大幅に削減
- DVD や HDD へのデータコピーや搬送業務が大幅に削減



■ テレビアニメーション制作に求められる迅速性

竜の子プロダクションはこれまで 88 本のアニメーション作品を世に送り出している。その多くは 1 作品が数十話に及ぶテレビアニメーションであり、しかも企画・開発・シナリオ・作画・撮影・編集といった工程をフルスコープで手掛けてきたものである。

そんな中、今春から始まったテレビアニメーション作品を韓国の大手アニメーション制作会社と共同制作することとなり、作画から撮影業務までをソウルで行うことになった。ところが隣国とはいえ、そのやりとりには思わぬ障害が存在した。情報システムを統括する同社管理部部長原田氏はいう。「韓国のパートナーとの素材のやりとりは、1 日 1 便の飛行機でのクーリエ便を使っています。しかし、アニメーション制作は作品の質を上げるために常に映像データの手直しや修正が発生し、それらを差し替える必要があります。毎週放送されるテレビアニメーション作品はスケジュールもたいへん厳しい中で制作していることから、これらをスムーズに行わないと納品に間に合わなくなってしまいます」クーリエ便を補完する意味で、ネットワークを使ったデータ転送を試みたが、結果ははかばかしいものではなかった。作品制作を管理する同社制作部の後藤氏は「FTP も使ってみました。丸一日パソコンの前に座ってダウンロードしても 1 話分の 1/4 しか受け取れず、ストレスの溜まる状況でした」と手詰まりだった当時の状況を振り返る。因みにアニメーション作品 1 話分は約 300 カットからなるが、日韓の距離もあり FTP では 1 カット分をダウンロードするだけで 10~20 分要していた。

途方に暮れる中、同社のシステムを長年に亙りサポートしてきた SI パートナー

株式会社 竜の子プロダクション 様



株式会社
竜の子プロダクション
管理本部
管理部 部長
原田 章宏 氏



管理本部 管理部
根本 学 氏



制作部 作画管理
後藤 広光 氏



株式会社竜の子プロダクション

本社：東京都国分寺市南町 3-22-12

創立：1962年10月19日

資本金：2,070万円

従業員数：49名

業務内容：アニメーション映像作品の企画制作／国内外における映像販売、著作権許諾、関連事業／オリジナルキャラクターの企画制作、開発

に相談したところ、SkeedSilverBullet™ を紹介された。

■ 速度、価格そしてサポートの総合力で選定

しかし、SI パートナーから薦められた SkeedSilverBullet™ について、当初はあまり期待していなかったという。その理由について、評価テストを行った同社管理部の根本氏は「当社サイドはギガビットの占有回線を使用していますが、韓国側の回線は ADSL ではないかという思い込みもあり、ネットワーク環境が悪ければソフトウェア製品を使っても効果は薄いだらうと考えていたのです」と説明する。

しかし、心配は2つの意味で杞憂に終わった。韓国側の回線は ADSL ではなく光回線であることが判明、そして何より「予想を遥かに超える評価結果」(根本氏)が得られたからだ。

更に、同社のネットワークを含むサポート全般を担ってきた SI パートナーの推奨であることも大きな安心となり、導入選定を後押しした。

■ 大容量になるほど真価を発揮する SkeedSilverBullet™

SkeedSilverBullet™ で転送される韓国パートナーからの受信ファイルは、制作工程で容量が一番大きくなる半完成品状態のデータである。「元々動画ファイルは大容量ですが以前の SD 時代に比べフル HD が主流になってきた現在では、ビデオ編集前になると数百 MB のファイルが数十個というかたまりを、1日に5~6回受け渡しすることになります。そのため、実測値で FTP の 100 分の 1 以下の時間で転送できる SkeedSilverBullet™ は今回のプロジェクトで欠くことができないツールになりました」(原田部長)

制作現場からも業務改善の効果が伺える。「FTP では転送中に瞬断すると頭からやり直しになるため放置できず、パソコンの前に張りつかないといけません。しかし SkeedSilverBullet™ はレジューム機能があり復旧と同時に自動再送するので、他の業務を並行して進められ生産性もぐんと高まりました」「これまで DVD や HDD に何度もコピーしていた作業やメディア購入がなくなったのでコストダウンにも大きく寄与していると思います」(共に後藤氏)

転送速度の向上から波及した生産性向上、コスト削減効果は決して小さいものではない。

■ デジタル作画の増加で広がる活躍の場

テレビアニメ制作で海外企業と共同制作を行うケースは急増するのか。原田部長は慎重に言葉を選ぶ。「世界的な流れとして国際共同制作は増えていくと思いますが、今回のようなロジスティックの問題のみではなく、それ以前に言語や文化の相違等乗り越えなければならない壁があり課題は多いと思います」ただ、いわゆるジャパニメーションの特徴であった手書きの作画から、徐々にデジタル作画が増える傾向にはあるため、画稿を収集する際にネットワークでのやり取りが増えてくることは十分予想される。今後、SkeedSilverBullet™ の活躍の場が広がることは確かなようだ。